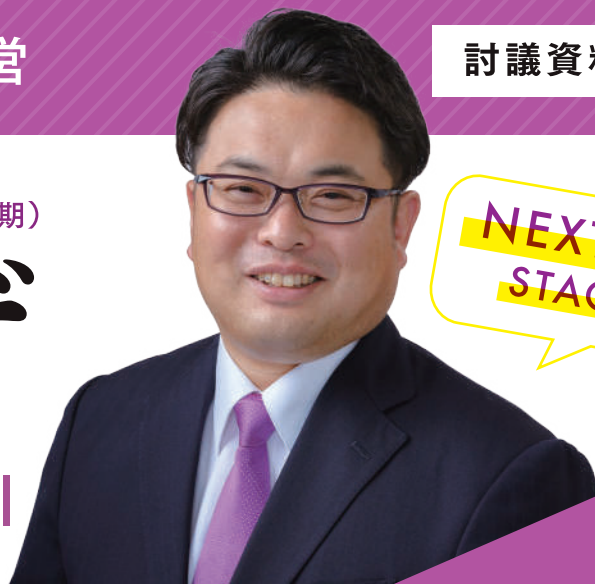


全国若手市議会議員の会 23代会長(横手市議2期)

# 奥山とよかず

OKUYAMA TOYOKAZU | 41歳 |



NEXT  
STAGE

## ご挨拶

培った経験と人脈を活かし、生まれ育った故郷を元気に。  
対話重視、市民が主役の市政運営を取り戻します。

私は、国会議員秘書として10年半の修行を経てふるさと横手に帰郷し、皆さまのご指導とご支援により2期8年、市議会議員として地元密着で働かせて頂きました。培った経験と人脈に加え、全国に500名規模の会員を有する「全国若手市議会議員の会」会長として、仲間と共に築き上げた全国ネットワークでこの閉塞感を打破し、横手の強みを活かした次世代に誇れるまちづくりを進めていきたいと考えています。

また、この4年間は市議会広報広聴委員長として、議会への市民参画を積極的に進めることで「開かれた議会」実現のために率先して取り組んできました。それぞれの地域に向かいの議会報告会・意見交換会などを通じて「結(ゆい)の精神」を教えて頂きましたし、改めて、市民との対話の重要性を身にしみ感じていくところです。課題は常に現場にあります。住み慣れた地域に暮らし続けていくためにはどんな手立てが必要なのか、自ら地域

に入り皆さまと膝を交えて話し合い、課題解決のための施策を一から作り上げていきます。

そして、場当たりではなく長期的視野に立ち、情報公開を徹底し、決まったことを事後報告するのではなく市民や議会と対話し協議を重ね、市の取り組みを分かりやすく説明しご理解をいただくという当たり前のことを取り戻します。

人口が減っても、一人ひとり**豊**かなまちに  
みんなが支え合い助け合う**和**のまちに

私は、市民に寄り添い、毎日額に汗して頑張る市民の背中をそっと押す、そんな温かい市政運営を実現することをお約束いたします。共に、未来を。

よろしく願い申し上げます。

確かなビジョンと揺るぎない信念 **奥山豊和**

新型コロナに  
負けない!!!

新型コロナウイルス感染症対策に全力。  
全市的な視点で、広く市民に行き届く経済対策を講じます。

## 奥山豊和氏の決意に賛同とご理解を

## ご挨拶

信頼し期待している市議の、突然の決意表明に驚きました。経緯についてお聞きしたところ、現市長は自らの考えを先行し、多くの施策が十分な論議がなされないままに進められ、問題点の指摘等については聞く耳を持たず、自らの主張を押し通そうとしているようです。一例をあげると、温泉施設について、第三セクター(市が関与する会社)の解散等に多額の税金を使い民間譲渡し、果ては返還を受け休業に追い込まれ大きな損失を出していますが、この責任は一切とらず、利用者の利便性や地域事情を配慮せず、今後も譲渡の方針は変わらないようです。

横手駅東口の再開発、体育館、文化施設の整備についても、しっかりした将来計画もなく議論が不足したまま進行し、これまた多額の税金を投入しようとしています。見栄えする大型施設を優先し、財源(お金)がないとの理由で地域に密着した事業がなされていない、こうした現市政を改め、市民に寄り添う市政を築

いていくことが最重要と考え、あえて火中に身を投ずる覚悟をしたとのことでした。

奥山家では、豊和氏の父豊氏が中心となって約16ヘクタールの水田を経営しています。農機具を購入する資金が必要なため横手市の補助金を受けようとしたのですが、これを豊和氏は「自分が補助金を使ったら、他の農家に回らないから」と思いとどまらせたそうです。

はた目には地味ですが、理不尽な事に対しては敢然と立ち向かう勇気と、広く多くの人に気遣う優しさを持つ奥山豊和氏です。必ずや市民のための市政、将来を見据えた地域づくりにその力を発揮すると確信します。皆様の温かいご理解をお願いいたします。

奥山豊和後援会

会長 佐々木 義広

## V. 1 コロナ後を見据えた これからの産業振興



県内トップの農業産出額をさらに押し上げる販売力の強化に、官民が連携しオール横手で取り組みます。

農地を守る受け皿となる担い手の育成に、地域ぐるみでスピード感を持って取り組みます。

労働力不足を補う生産性向上と競争力向上のための設備投資、事業継承を支援し、地元企業を応援します。

## V. 2 現場力の強化と市民協働による、 地域の特性を活かしたまちづくり

現場を知る各地域局が、主体的に地域のことは地域でできる体制にすることで「公助」を強化し、地域の特性を活かした市民が主役のまちづくりを応援します。

多発する自然災害に対応するためには、人と人の結びつきによる「共助」と日頃の備えが大切です。町内会をはじめとする住民自治組織への日常活動支援を拡充することで地域を元気にし、ひいては災害や大雪に強いまちづくりに繋げていきます。

## V. 3 人口減少社会に向き合う、 持続可能なまちづくり



若者が暮らし続けたい、いつでも帰ってきたいと思える横手市にするために、若者のまちづくりへの参画を進めます。

「(仮称)新たな価値創造プロジェクト」により、市内中高生はじめ青年組織等と協働し、若い世代の意見、地域おこし協力隊や関係人口など外部の視点を取り入れながら、横手に暮らすことの意味付けを創造する新たな事業を興します。

40代の責任世代として、地球環境への配慮と循環型社会の実現、SDGsの推進を徹底します。

## V. 4 市民の「日常」を支援し、 社会全体で支える福祉政策と 教育の充実

雪寄せ雪下ろしや移動手段の確保など、高齢者に寄り添った生活支援を拡充することで、住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられる、高齢先進県秋田をリードする健康長寿社会を実現します。

子どもの視点に立ち、ライフサイクルを念頭に置いた誰一人取り残すことのない子育て支援と、生きる力を育む学びの環境の充実に取り組みます。



## V. 5 将来世代に負担を先送りしない、 長期的ビジョンを持った公共施設の 適正配置

温泉施設について、長期展望として段階的な適正配置は必要ですが、健康づくりや憩いの場の創出などを含めた公共温泉の地域貢献を十分に認識し、民間活力と市民協働を軸に、地域の拠点として有効活用します。

**市有温泉の民間譲渡は行わず、  
休業中の施設再開に全力を尽くします!**



老朽化の進む公共施設の維持管理は大きな課題です。将来の財政に大きな影響を及ぼす「横手市財産経営推進計画(FM計画)」については、市全体を俯瞰しつつ8地域それぞれの視点から総点検を行います。その上で、今後の行政機能の在り方も含め大型公共施設の再配置については、利用者目線で地域バランスに配慮した整備更新を着実に迅速に行います。

**多機能体育館の建設に  
スピード感を持って取り組みます!**

### プロフィール

奥山 豊和

おくやま とよかず

所属団体 ●横手市消防団大雄支団 ●横手青年会議所(OB特別会員)  
●JA秋田ふるさと青年部 ●横手市陸上競技協会

昭和55年3月8日生まれ(41歳) / 農業(家族4人で水稻約16ha)

趣味 / 地元産のお酒を嗜むこと、マンガ・アニメ

平成4年 — 阿気小学校 卒業  
平成7年 — 大雄中学校 卒業  
平成10年 — 大曲高校 卒業  
平成14年 — 東北学院大学 卒業

高校・大学では陸上競技部に所属。  
ハンマー投げで大曲高校3年時、県総体・東北大会優勝、  
'97京都インターハイに出場。



平成14年 — 金田勝年参議院議員秘書  
(横手事務所勤務、県南担当)

平成21年 — 金田勝年衆議院議員秘書  
(国会事務所勤務、会計や政策等を担当)

平成25年 — 3月、退職しUターン / 10月～横手市議会議員(2期)

平成28～30年 — 全国若手市議会議員の会 東北ブロック代表

平成30～令和元年 全国若手市議会議員の会 会長



公式HPやブログ、各SNSにて活動内容発信中

奥山とよかず事務所 〒013-0409 横手市大雄字東四津屋271  
TEL 070-8542-3440 / FAX 0182-52-3470

連絡事務所 〒013-0023 横手市中央町7-34



HP



ブログ

